

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年7月10日
第23号

6つの提案に新鮮な発見

ドリゼミ発表会

7月8日、3年生の6つのゼミが2年間の課題研究の成果を報告してくれた。どのゼミも身近なところで新たな課題を見つけ、研究成果や解決策を提示する、なるほどと思わせる報告だった。

日本のスポーツを問い直す

「スポーツとの多様な関わり方」

日本の体育の授業には体力測定があるが、海外に同様のものはない。日本のスポーツで当たり前になっていることが海外では異なることもある。そこでスポーツを「する」「見る」「支える」の3つの観点から日本と海外の違いを調べた。

①「する」自由度が低い日本

日本で運動会は全員が参加する強制力があるが、海外では参加は自由で義務化されていない。部活動においても技能の向上、勝利主義にとらわれがちで、スポーツへの自由度は低い。

②「見る」マナーは一流

日本のスポーツ観戦マナーは海外から賞賛されている。

③「支える」個性伸ばせない

日本の子どもはスポーツを楽しむながらプレーしているか。減点主義、加点主義、勝利主義



旧手宮線散策路

旧手宮線で観光盛り上げる

「鉄道ビジネス」

スポーツをより楽しむためには、体力、目標、健康が大切だ。従来のスポーツの概念にとらわれず、それぞれの楽しみ方があることを意識したい。

でコーチに叱られないように萎縮してはいないか。一方、海外では子どもをほめて育てている。日本では子どもの個性をうまく育てられていないのではないか。【まとめ】

小樽の観光の課題は次の3つである。①夜まで観光客が滞在しない。②宿泊場所が少ない。③イベント情報の発信不足。

そこで旧手宮線を活用した複合観光施設「オアシス」を提案する。線路に4両の鉄道を配置し、その周辺に施設（倉庫ホテル・カプセルホテル、カフェなど）を組み込む。また、SNS（インスタやX）を使い、盛んに情報を発信し、鉄道ファンを取り込む。地元飲食店とのコラボは欠かせない。

砂のトイレの普及のために

「水とトイレ」



世界のトイレ事情を報告し、トイレの水が確保できず、衛生や安全の問題がエチオピア、インド、ナイジェリアなどにあることを報告した。JICAを

訪れ、水の代わりに砂を代用するトイレ「サンデイ」（右写真）を知り、紹介した。設置・維持には莫大なコストがかかるため、NGOへの寄付を募っている。これを進めるために、コーヒー豆のような現地の特産品をふるさと納税方式で納める方法を提案している。

さまざまな角度から分析

「いちごの魅力」

フード・デザイン



いちごは美味しくビタミンCが豊富な果物だが、作付面積、収穫量が減り、生産者は高齢化している。

タイズを3題出題した。①いちごのつぶつぶは果実かどうか。②シュートケーキの日はいつか。(22日)③アルミホイールで包むと日持ちするか。(〇)いちごの変わったレシピとして、いちごカレー、ピッツア、ほうれん草の和え物が紹介された。

小樽の地質と生物を深掘り

「海底火山と生物について」

サイエンス

小樽では、赤岩が約1000年前の火山島で、西部海岸の忍路や東部海岸の張碓は約1000〜500万年前に噴火した海底火山が残されている。その痕跡である枕状溶岩やハイアロクラスタイト（水冷破碎岩）が広く観察される。それはハワイ島と比較されるほど貴重な地質群である。



生態系にも特色がある。スケリーフット（写真①）は、深海の熱水噴出孔だけ



に密集して生息する巻き貝の仲間である。ゴエモンコシオリエビ（写真②）はカニの姿のヤドカリだ。これらの生物の生息により、噴気孔近くで生物が発生し広がったのではないかと考えられている。

2つのゲームを提案

「みんなが公平に遊ぶために」

医療・福祉

みんなが公平に遊べるゲームを2種類提案した。その際、手軽でルールが簡単、身体能力に関係のないものを考案した。

①うちわゲーム

うちわでティッシュを打ち合うゲーム。バリアフリーに注目し、校内を見ると、1階に車椅子トイレがあるが、張り紙なく、通路も狭いため、あまり知られていない。心のバリアフリー（思いやり）が必要だ。

②はじける！ポトルキャップゲーム

ポトルキャップにティッシュでくるんだビー玉を入れてはじき、エリア内で点数化する。研究を通じて、「公平」とは

みんながよりよく過ごせることではないかというまとめを示した。